

| | | | |
|---------|---|---------|----------|
| 氏名 | 沼 本 章 博 | | |
| 学位の種類 | 医 学 博 士 | | |
| 学位授与番号 | 乙 第 1393 号 | | |
| 学位授与の日付 | 昭和58年9月30日 | | |
| 学位授与の要件 | 博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当） | | |
| 学位論文題目 | 4-Amino-3(RS)-hydroxybutanoic acid maleate の抗けいれん作用に関する研究 | | |
| 論文審査委員 | 教授 庄盛敏廉 | 教授 大月三郎 | 教授 大田原俊輔 |

学位論文内容の要旨

4-Amino-3-hydroxybutanoic acid (GABOB) のラセミ混合物である (RS)-GABOB maleate を調整し、ペンチレンテトラゾール (PTZ)、ビククリン及びペニシリン誘発発作に対する (RS)-GABOB maleate 及び (R)-GABOB の抑制効果を検討した結果、以下の知見を得た。

(RS)-GABOB maleate を静注すると、PTZ けいれん閾値の増加が認められ、脳室内に投与すると PTZ 誘発発作波出現までの潜時の延長、burst の頻度の減少、及び burst 持続時間の短縮が認められた。つぎに (RS)-GABOB maleate を脳室内に投与するとビククリンまたはペニシリンの誘発発作波は著明に抑制され、静脈内に投与すると発作波の軽度の抑制が観察された。さらに (RS)-GABOB maleate を中脳網様体に直接投与すると、ペニシリン誘発発作放電が完全に抑制されることが示された。また、(RS)-GABOB maleate のペニシリン誘発発作波に対する抑制作用は、(R)-GABOB よりも明らかに強いことが示された。

論文審査の結果の要旨

本研究は γ -アミノ- β -ヒドロキシ酪酸 (GABOB) から新たに調整されたマイレン酸 (RS)-GABOB について、その中枢興奮状態抑制作用を研究したものであるが、従来最強とされた (R)-GABOB よりもさらに強力な薬理作用を有するなどの重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。